

# 四半期報告書

(第60期第2四半期)

自 平成25年7月1日

至 平成25年9月30日

株式会社 **ジオディノス**

札幌市中央区南3条西1丁目8番地

# 目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報 .....	1
第1 企業の概況 .....	1
1 主要な経営指標等の推移 .....	1
2 事業の内容 .....	2
第2 事業の状況 .....	3
1 事業等のリスク .....	3
2 経営上の重要な契約等 .....	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	3
第3 提出会社の状況 .....	5
1 株式等の状況 .....	5
(1) 株式の総数等 .....	5
(2) 新株予約権等の状況 .....	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	5
(4) ライツプランの内容 .....	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	5
(6) 大株主の状況 .....	6
(7) 議決権の状況 .....	6
2 役員の状況 .....	6
第4 経理の状況 .....	7
1 四半期財務諸表 .....	8
(1) 四半期貸借対照表 .....	8
(2) 四半期損益計算書 .....	10
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	11
2 その他 .....	15
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	16

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成25年11月13日
【四半期会計期間】	第60期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社ゲオディノス
【英訳名】	GEO DINOS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 光安 浩二
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第2四半期 累計期間	第60期 第2四半期 累計期間	第59期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高（千円）	4,084,120	4,151,337	8,370,918
経常利益又は経常損失（△）（千円）	△47,292	29,368	62,499
当期純利益又は四半期純損失（△） （千円）	△69,027	△305,642	59,729
持分法を適用した場合の投資利益 （千円）	—	—	—
資本金（千円）	948,775	948,775	948,775
発行済株式総数（株）	4,303,500	4,303,500	4,303,500
純資産額（千円）	2,253,210	2,072,459	2,376,731
総資産額（千円）	10,835,631	10,119,277	10,417,135
1株当たり当期純利益金額又は四半期 純損失金額（△）（円）	△16.21	△71.96	14.03
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	—	—	1.00
自己資本比率（％）	20.7	20.4	22.8
営業活動によるキャッシュ・フロー （千円）	190,597	286,073	798,700
投資活動によるキャッシュ・フロー （千円）	9,503	18,571	△130,022
財務活動によるキャッシュ・フロー （千円）	126,293	△64,701	△665,215
現金及び現金同等物の四半期末（期末） 残高（千円）	1,122,137	1,039,148	799,205

回次	第59期 第2四半期 会計期間	第60期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	3.65	△63.56

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれていません。
3. 「持分法を適用した場合の投資利益」は、関連会社がないため記載していません。
4. 第59期及び第60期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。
5. 第59期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出の持ち直しや各種政策の効果などを背景に、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、緩やかな景気回復がみられる一方で、消費税増税への動きや電気料金の値上げ、原材料価格の上昇など、国内景気は依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社の経営の基本方針である『人々に《楽しむ》を提供し、明日の幸せをお届けします。』の経営理念のもと、一層の経営の効率化を図り、収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高は41億51百万円（前年同四半期比1.6%増）、営業利益は1億10百万円（前年同四半期比186.3%増）、経常利益は29百万円（前年同四半期は経常損失47百万円）となり、四半期純損失は減損損失3億52百万円を計上したことにより、3億5百万円（前年同四半期は四半期純損失69百万円）となりました。

当第2四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	1,623,581	2.2
フィットネス運営部 (千円)	1,201,755	2.7
ボウリング運営部 (千円)	561,478	△2.1
カフェ運営部 (千円)	267,355	△4.4
ディノス施設運営部 (千円)	497,166	5.1
(シネマ) (千円)	(386,996)	(5.6)
(その他) (千円)	(110,169)	(3.3)
合計 (千円)	4,151,337	1.6

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 第1四半期会計期間の組織変更に伴い、カフェ運営部の1店舗をボウリング運営部に変更しております。前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。

3. ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

4. ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

#### (GAME運営部)

GAME運営部につきましては、「ゲオパークじょいくるーず店」の閉店(平成24年11月)等がありましたが、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパークの新規出店並びにUFOキャッチャーに代表されるプライズ機の景品を取れやすくすること(原価率重視からペイアウト率重視へ転換)等の施策が効果を上げ始めたこと、太鼓の達人をはじめとする音楽ゲームが好調だったことなどにより、売上高は16億23百万円(前年同四半期比2.2%増)となりました。

#### (フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、健康意識の高まりにより、利用者及び会員数が増えたこと、加圧トレーニング導入効果など会費以外の収入が増えたこと、女性専用の「ホットヨガスタジオ ハーティノルベサ(札幌市)」がオープン(平成25年1月)し、店舗数が増えたことなどにより、売上高は12億1百万円(同2.7%増)となりました。

#### (ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、健康増進レジャーとして、ボウリング教室等をシニア層向けに開催したり、プロショップ「ベガ」（ボウリング用品専門店）を3店舗にオープンし、物販収入が増えましたが、今夏の猛暑が影響し、一般客の来場者数が減少したことなどにより、売上高は5億61百万円（同2.1%減）となりました。

#### (カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、割引クーポンの発行やシニア割引、また飲食のテイクアウト等施策を実施しましたが、業界全体の規制強化の影響を受け、その回復が遅れていること、一部地域における競合店の出店による影響などにより、下げ止まりのきざしはようやく見えはじめたものの、売上高は2億67百万円（同4.4%減）となりました。

#### (ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、「シネマ」において、「モンスターズ・ユニバーシティ」、「風立ちぬ」などのヒット作があったこと、ODS（非映画デジタルコンテンツ）の上映作品が増え堅調に推移したこと、また、その入場者数が増え飲食や物販収入が増加したことなどにより、売上高は3億86百万円（同5.6%増）となりました。

「その他」においては、前事業年度に1店舗を飲食店として他社への賃貸物件を増やし（平成24年12月）、不動産賃貸収入が増加したことなどにより、売上高は1億10百万円（同3.3%増）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ2億39百万円増加し、10億39百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、2億86百万円（前年同四半期は1億90百万円の増加）となりました。これは主に、税引前四半期純損失が3億22百万円、利息の支払額が57百万円、その他負債の減少額が45百万円及び法人税等の支払額が30百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億95百万円及び減損損失が3億52百万円あったことなどによるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、18百万円（前年同四半期は9百万円の増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が38百万円ありましたが、投資有価証券の売却による収入が39百万円及び差入保証金の回収による収入が11百万円並びに長期貸付金の回収による収入が11百万円あったことなどによるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、64百万円（前年同四半期は1億26百万円の増加）となりました。これは主に、社債の発行による収入が11億69百万円及び短期借入れによる収入が1億円並びに長期借入れによる収入が1億円ありましたが、長期借入金の返済による支出が6億77百万円、短期借入金の返済による支出が2億30百万円、長期未払金の返済による支出が1億81百万円、リース債務の返済による支出が1億70百万円及び社債の償還による支出が1億65百万円あったことなどによるものであります。

### (3) 財政状態の分析

#### (資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末の総資産は101億19百万円となり、前事業年度末に比べ2億97百万円減少しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の増加（前期末比2億27百万円増）がありましたが、建物等有形固定資産の減少（同5億15百万円減）があったことによるものであります。

負債については、80億46百万円となり、前事業年度末に比べ6百万円増加しました。これは主に、1年以内返済予定の長期借入金等流動負債の減少（同2億56百万円減）がありましたが、社債等固定負債の増加（同2億62百万円増）があったことによるものであります。

純資産については、20億72百万円となり、前事業年度末に比べ3億4百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少（同3億9百万円減）があったことによるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,303,500	4,303,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,303,500	4,303,500	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	—	4,303,500	—	948,775	—	1,128,995



(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社ゲオホールディングス	愛知県名古屋市中区富士見町8番8号	3,100	72.03
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	212	4.92
株式会社セガ	東京都大田区羽田1丁目2-12	135	3.15
ゲオディノス従業員持株会	札幌市中央区南3条西1丁目8	68	1.59
株式会社北星コーポレーション	札幌市中央区南4条西3丁目9	50	1.16
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	札幌市清田区清田一条1丁目2-1	40	0.92
中道リース株式会社	札幌市中央区北1条東3丁目3番地	37	0.85
西山一彦	三重県桑名市	31	0.73
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町2丁目6-2	20	0.46
オリックス株式会社	東京都港区浜松町2丁目4-1	20	0.46
株式会社ムラオカ食品	札幌市中央区南8条西1丁目13-80	20	0.46
計	—	3,735	86.79

(注) 上記のほか、自己株式が59,494株あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 59,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,243,600	42,436	—
単元未満株式	普通株式 500	—	—
発行済株式総数	4,303,500	—	—
総株主の議決権	—	42,436	—

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社ゲオディノス	札幌市中央区南3条 西1丁目8番地	59,400	—	59,400	1.38
計	—	59,400	—	59,400	1.38

2 【役員状況】

該当事項はありません。

#### 第4【経理の状況】

##### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

##### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

##### 3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	799,205	1,039,148
売掛金	150,949	125,615
商品及び製品	28,003	39,662
原材料及び貯蔵品	79,703	79,604
その他	140,765	141,981
貸倒引当金	△1,010	△880
流動資産合計	1,197,616	1,425,132
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,818,124	3,409,244
アミューズメント機器（純額）	411,879	368,486
土地	2,699,860	2,680,490
リース資産（純額）	553,177	546,993
その他（純額）	205,333	167,753
有形固定資産合計	7,688,376	7,172,968
無形固定資産		
投資その他の資産	26,374	22,518
差入保証金	1,187,285	1,184,296
その他	289,368	260,019
投資その他の資産合計	1,476,654	1,444,315
固定資産合計	9,191,406	8,639,802
繰延資産	28,113	54,341
資産合計	10,417,135	10,119,277
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	176,930	164,724
短期借入金	130,000	—
1年内償還予定の社債	330,000	522,800
1年内返済予定の長期借入金	1,207,328	1,043,212
1年内返済予定の長期未払金	359,896	316,059
未払法人税等	35,631	23,865
賞与引当金	31,229	38,518
ポイント引当金	7,600	6,600
その他	922,203	828,543
流動負債合計	3,200,818	2,944,323
固定負債		
社債	1,032,000	1,874,200
長期借入金	2,459,515	2,046,511
長期未払金	668,573	522,924
資産除去債務	142,162	139,550
その他	537,334	519,307
固定負債合計	4,839,585	5,102,494
負債合計	8,040,404	8,046,818

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	313,651	3,751
自己株式	△20,987	△26,805
株主資本合計	2,370,434	2,054,716
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	989	12,435
評価・換算差額等合計	989	12,435
新株予約権	5,307	5,307
純資産合計	2,376,731	2,072,459
負債純資産合計	10,417,135	10,119,277

(2) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	4,084,120	4,151,337
売上原価	866,173	922,722
売上総利益	3,217,947	3,228,615
販売費及び一般管理費		
給料	801,075	779,180
賞与引当金繰入額	38,409	38,518
退職給付費用	10,940	10,959
水道光熱費	348,074	338,622
租税公課	34,597	39,738
地代家賃	604,186	600,749
減価償却費	398,013	386,672
修繕維持費	193,916	205,959
その他	750,212	717,918
販売費及び一般管理費合計	3,179,427	3,118,321
営業利益	38,520	110,294
営業外収益		
受取利息	1,752	1,558
受取配当金	1,024	729
アミューズメント機器売却益	—	1,654
受取保険金	1,597	3,402
その他	1,670	1,944
営業外収益合計	6,045	9,288
営業外費用		
支払利息	64,597	53,620
アミューズメント機器処分損	7,094	11,932
その他	20,165	24,661
営業外費用合計	91,857	90,214
経常利益又は経常損失(△)	△47,292	29,368
特別利益		
固定資産売却益	12	—
投資有価証券売却益	4,848	1,229
違約金収入	—	4,340
移転補償金	—	1,597
特別利益合計	4,860	7,166
特別損失		
固定資産除却損	1,408	6,732
減損損失	—	352,154
特別損失合計	1,408	358,887
税引前四半期純損失(△)	△43,841	△322,351
法人税、住民税及び事業税	16,133	15,328
法人税等調整額	9,053	△32,038
法人税等合計	25,186	△16,709
四半期純損失(△)	△69,027	△305,642

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△43,841	△322,351
減価償却費	407,065	395,721
減損損失	—	352,154
株式報酬費用	662	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	250	△130
賞与引当金の増減額(△は減少)	12,195	7,289
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額(△は減少)	△139,524	△20,076
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,300	△1,000
受取利息及び受取配当金	△2,776	△2,287
支払利息	64,597	53,620
有形固定資産除却損	8,503	15,267
有形固定資産売却損益(△は益)	△12	1,743
投資有価証券売却損益(△は益)	△4,848	△1,229
売上債権の増減額(△は増加)	10,616	25,333
たな卸資産の増減額(△は増加)	△950	△11,560
未収入金の増減額(△は増加)	5,278	6,387
その他の資産の増減額(△は増加)	△13,184	△21,421
仕入債務の増減額(△は減少)	7,325	△12,205
未払消費税等の増減額(△は減少)	21,784	△23,611
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△20,872	△14,932
その他の負債の増減額(△は減少)	△45,057	△45,162
小計	269,512	381,548
利息及び配当金の受取額	1,186	808
利息の支払額	△64,127	△57,370
役員退職慰労金の支払額	—	△8,405
法人税等の支払額	△15,973	△30,507
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,597	286,073
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期貸付金の回収による収入	11,463	11,853
投資有価証券の取得による支出	△1,248	△1,234
投資有価証券の売却による収入	10,650	39,082
有形固定資産の取得による支出	△75,143	△38,425
有形固定資産の売却による収入	29,914	4,266
有形固定資産の除却による支出	△85	—
差入保証金の差入による支出	△3,203	△8,148
差入保証金の回収による収入	37,156	11,177
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,503	18,571

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	100,000
短期借入金の返済による支出	△100,000	△230,000
長期借入れによる収入	700,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△684,714	△677,120
社債の発行による収入	633,903	1,169,113
社債の償還による支出	△94,000	△165,000
長期未払金の返済による支出	△186,902	△181,114
自己株式の取得による支出	—	△5,817
リース債務の返済による支出	△141,992	△170,540
配当金の支払額	—	△4,221
財務活動によるキャッシュ・フロー	126,293	△64,701
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	326,395	239,943
現金及び現金同等物の期首残高	795,742	799,205
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 1,122,137	* 1,039,148

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	1,122,137千円	1,039,148千円
現金及び現金同等物	1,122,137	1,039,148

(株主資本等関係)

I 前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月19日 定時株主総会	普通株式	4,258	1.00	平成25年3月31日	平成25年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,587,986	1,169,812	573,797	279,545	472,978	4,084,120	—	4,084,120
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,587,986	1,169,812	573,797	279,545	472,978	4,084,120	—	4,084,120
セグメント利益又は 損失 (△)	104,303	140,048	△14,088	14,333	△10,355	234,240	△195,720	38,520

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△195,720千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。



Ⅱ 当第2四半期累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額 (注) 2
	GAME 運営部	フィットネ ス運営部	ボウリング 運営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,623,581	1,201,755	561,478	267,355	497,166	4,151,337	—	4,151,337
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,623,581	1,201,755	561,478	267,355	497,166	4,151,337	—	4,151,337
セグメント利益又は 損失 (△)	127,437	149,074	△6,595	8,443	29,549	307,908	△197,613	110,294

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△197,613千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間から、収益力強化を目的とした会社組織の変更に伴い、「カフェ運営部」に含めていた1店舗を「ボウリング運営部」に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

	報告セグメント						全社・消去	合計
	GAME運 営部	フィットネ ス運営部	ボウリング運 営部	カフェ 運営部	ディノス 施設運営部	合計		
減損損失	115,181	66,469	42,171	23,951	104,380	352,154	—	352,154

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	△16円21銭	△71円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 (千円)	△69,027	△305,642
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額 (千円)	△69,027	△305,642
普通株式の期中平均株式数 (株)	4,258,406	4,247,390

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

株式会社ゲオディノス

取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 瀬戸口 明慶 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゲオディノスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第60期事業年度の第2四半期会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゲオディノスの平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。